賀川豊彦記念 松沢資料館
資料館ニュース
Kagawa Archives & Resource Center Newsletter
No. 89
絵：賀川豊彦

貧困化のただ中にある日本社会

館長　金井 新二

今回の賀川豊彦記念企画（下記参照）での二つの講演は私に衝撃を与えた。はっきりと数字で貧困社会日本の現実を突きつけられたからである。何より、「賀川の時代よりもむしろ悪くなっている」という言葉はするどい刃物のように私の胸に突き刺さった。

肯定的なものもたしかにある。様々な改善もある。我々はたった今賀川豊彦賞の選考を済ませたところである。それで確信をもって言えるのだが、心のこもった素晴らしい善意の取り組みが日本中で行われている。だがしかし、それらの小さな灯の火をあざ笑うかのように圧倒的な貧困化が大規模に進行しており、現代の日本社会を覆い尽くそうとしているのだ。それは洪水と同じである。いくつかの小島がなお残っているが、それはすべて富裕者たちの住居である。そこでは素晴らしい優美な住居があり、最先端の生活環境が完備している。富裕者たちは我が身の幸運を喜び、神に感謝しながらいくらかの施しを哀れな人々に与えるのである。だがその富者たちの小島を取り囲む広大な領域ではすでに腰まで水がきており、その汚水の中を人々は食物やその他必要なものを求めて歩き回っている。富裕者たちに比べてあまりに膨大な数の貧困者たちである。このような絵はいわゆるゾンビ映画で我々は知っている。ただ、それが現実になっていることを我々は知らなかったのである。二〇一六年の統計では二三・三％の貧困率であるが、いまは三〇％に近づいているとのことである。日本人の三人に一人が貧困者になりつつあるといえばその脅威が実感できるだろう。

私は二つの質問をした。一つは貧困問題の講演者藤田孝典氏（「現代日本の貧困と格差」NPO法人ほっとプラス代表理事）に。こんなに日本が貧困化するまで労働組合は一体何をしていたのか。民衆に広く浸透している貧困は無論、アベノミクスとか新自由主義とか言っている政府のこれを解決しようという意欲の欠如のためであり、つまり財界に雇われた政府であるからもともと多くを望めないのである。だが労働組合はそうではないはずだ。しかるにこの二〇年かその位ストライキがないのはなぜなのだろう。スト権は働く者たちの最後の砦だったはずだが、何やらこの認識は古くなったようだ。しかし、そうなってから大小企業では給料の上昇が止まったのではないか。それなら、ベースアップを要求しない労働組合は存在意義を自ら放棄したということだろう。ましてや、このような貧困蔓延社会を出現させてしまったのである。ストライキをしない労働組合はこの格差の恐るべき進行にたいして半分の責任がある。むろん藤田氏の答えは、たしかに労働組合は十分に機能していないのは遺憾であるというものだった。

私のもう一つの質問は、もう一つの講演「隣人愛―生きづらさを抱える人にできること―」の講演者佐々木炎氏（NPO法人ホッとスペース中原代表）へ、話されたような様々な貧困者救援の取り組みにたいして行政はどういう存在なのか。役所は一緒にやってくれるのかという質問。これにたいしては行政とは今のところとても仲良くやっているという。行政はいろいろなケースについて持っている情報を教えてくれたり、具体的な支援もしてくれているということだった。それを聞いて少し安心した。なるほど、行政がいつも邪魔をするというわけではないのだ。貧困の追放にしても環境の保全にしても行政とNPOが手を携えることが必要である。実際にそのことが起こっていると聞いて嬉しい気持ちがした。だが考えねばならないのは「隠された貧困」ということだ。これは人知れず進行していく貧困ということだが、それは行政には「貧困」の窓口はないということも意味している。離婚相談や介護相談などは窓口があっていくらでも相談に乗ってもらえるし、適当な専門家にも紹介してもらえる。だが「貧困相談」という窓口はない。ゆえに、講演の中に言及されていたワーキングプアの場合、これは生活が少しでも向上していけるような給料がもらえないという問題である。働けど、働けど生活レベルが落ちていくという状況である。こういう人は市役所に来ても相談窓口がないのである。あるいは、奨学金をもらっていたために大きな借金を背負って卒業する大学生たちの深刻な状況。かれらにも窓口はない。こういう学生たちがもし低い給料の職場にたどり着いたとしても、その先は明るくはない。ハードな労働だけで結婚の望みもないワーキングプアの道が残っているだけなのだ。あまりに無残である。

私は、つまるところ、賀川豊彦がやったようにもう一度大労働争議、つまり大ストライキをしなければならないと思った。そのような労働大衆の実力行使は残念ながら今でも有効であり、いや必然性があると言わねばならない。毎年、僅かずつでもベースアップしていけば、ワーキングプアの増加は阻止できる。つまり貧困化の大本は絶たれるのだ。「賀川の時代よりもむしろ悪くなっている」のなら、賀川に戻ってやり直すほかないではないか。そのことを考えながら私は家路を辿ったのであった。

金井 新二（かない　しんじ）
賀川豊彦記念松沢資料館館長、公益財団法人賀川事業団雲柱社理事長、東京大学名誉教授。1942年北海道生まれ。早稲田大学第一法学部卒業、その後、東京神学大学、東京大学大学院に学ぶ。その後、東京大学教授、北星学園大学学長など歴任。主な著書に、『神の国思想の現代的展開』（教文館、1982年）、『マックス・ウェーバーの宗教理論』（東京大学出版会、1991年）、『現代宗教への問い』（教文館、1997年）など。賀川豊彦関係論文としては、「賀川豊彦における実践的キリスト教のエートス」、「賀川豊彦の現代的意義」など。

―「だれ一人とり残されることのない社会」をめざして！第5回賀川豊彦シンポジウム開催―

第5回賀川豊彦シンポジウムが11月9日（土）13時半から明治学院大学白金校舎 2号館で開催されました（賀川豊彦シンポジウム実行委員会、賀川豊彦記念講座委員会、明治学院大学キリスト教研究所、賀川豊彦研究プロジェクトの共催）。

今年のテーマは、「賀川豊彦とSDGs だれ一人とり残されることのない社会」で、杉浦秀典氏（賀川豊彦記念松沢資料館副館長）の開会挨拶の後、稲垣久和氏（東京基督教大学特別教授）が、16歳の高校生グレタさんの国連でのスピーチを例に、「地球環境激変のなか、持続可能な社会とはどういう社会なのか。大人たちは子どもたちの将来のためにいま行動をおこすべきである。本シンポジウムでは、女性、特に様々な困難を抱えている社会に出る前の子どもたちや生きづらさを抱えている若年女性の支援を行っている村木厚子氏（津田塾大学客員教授、元厚生労働事務次官）の取り組み、農業労働に『癒しの力』があるとみて〝農福連携〟の取り組みを行っている濱田健司氏（JA共済総研主任研究員）、ILOの掲げるディーセントワークとは何かについての逢見直人氏（連合会長代行）の提言などをうかがい、賀川豊彦の思想と実践に学びながら、みなさんとともに考えていきたい」との開催主旨説明がありました。

続いて、コーディネーターの伊丹謙太郎氏（ 千葉大学特任助教）から、「2015年に国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）の17のゴールのうち、日本が諸外国に比べて極めて不十分となっているのが、①ジェンダー不平等、②責任ある生産・消費、③気候変動、④パートナーシップの4領域である。SDGsの『だれ一人とり残さない』という精神は、賀川豊彦の実践を象徴する言葉であり、彼が目指した万人が主人公となる組合主義、この道なくして達成できないのではないか」との「解説」の後、村木厚子氏の基調講演「SDGsと日本～ジェンダー平等を中心に～」と濱田健司氏のテーマ講演「農福連携における社会参加～キョードー者のための～」、逢見直人氏のコメントおよび登壇者によるパネルディスカッションが行われました。

（松沢資料館嘱託講師　和田武広）

―「賀川豊彦記念企画　岐路に立つ未来　～閉塞化する「貧困」の解決に向けて～」開催―

2019年11月16日（土）午後1時より、早稲田大学早稲田キャンパス14号館102教室にて、「賀川豊彦記念企画　岐路に立つ未来　～閉塞化する「貧困」の解決に向けて～」と題した学習講演会が開催されました。この企画は、賀川豊彦関係団体・協同組合連絡協議会が主催したイベントで、早稲田大学先端社会科学研究所の後援を受けて開催されました。

同協議会は、2009年に賀川豊彦が神戸のスラムへ移り住んで、地域改善を始めたことを記念して開催された「賀川豊彦献身100年記念事業」を契機として発足した団体です。日本生協連、JA全中、連合、JA共済、全労済、労金協会、労福協などの組合団体等計35団体が、緩やかなつながりを持ちながら交流を進めている協議会です。昨年は「賀川豊彦生誕130周年記念」のイベントを開催しました。これが大変好評であったことから、本年度は学習会として講演会を企画しました。

当日は、最初に賀川を紹介した短いビデオを上映し、その後ゲスト講師によるご講演を頂きました。一つ目の講演は、「現代日本の貧困と格差～分かち合いと連帯の時代にするために～」と題して、講師：NPO法人ほっとプラス代表理事の藤田孝典氏

より、資本主義社会の問題とそれに対するカウンター組織としての労働組合運動などの必要性を語っていただきました。藤田氏は『下流老人』などの著作で知られる、貧困問題に携わる第一人者の一人です。二つ目の講演は、「隣人愛～生きづらさを抱える人にできること～」と題して、NPO法人ホッとスペース中原代表佐々木炎氏より、ご講演を頂きました。佐々木氏は福祉事業に携わりながら、さらに、様々な経緯から触法してしまった人たちに対する社会復帰の支援を行っている、キリスト教の牧師です。ご講演には、かつて触法し、現在は更生して佐々木氏の運営する施設に働いている職員が、自らの体験を証して下さいました。

両講演とも、今日の社会が真剣に向き合う必要がある内容で、集まった100名を超える人々は、とても熱心に聞き入っていました。

―第11回松沢フォーラム開催―

10月19日(土)第11回賀川豊彦松沢フォーラムが開催されました。まず最初に松野尾裕氏(愛媛大学教授)の『「経済門」と「道徳門」をつなぐ思想と運動―大日本報徳社を訪ねて―』の研究発表が行なわれました。続いて第3回出版助成受賞者和田武広氏から、著作『共済事業の源流をたずねて』の出版報告があり、その後なごやかな雰囲気の中、出版記念の花束贈呈と茶話会が催されました。

第三回出版助成受賞者の
和田武広氏への花束贈呈

―第一期土曜講座が終了しました―

賀川豊彦記念松沢資料館では、6月1日(土)～8月10日(土)全6回に渡り土曜講座を開講いたしました。5回以上受講された方には、後日、来年度より始まる「松沢資料館ボランティアガイド」の登録要件となる修了証が発行されました。全講座を通してのべ126名の参加者があり、講座後の茶話会でも活発に意見交換がなされ、毎回参加者皆さんの熱意が伝わってくる内容でした。当館の目指す会づくりの第一歩を踏み出すことができ、無事第一期講座を修了致しました。

―コープみらいフェスタへ　出展！―

「生協の父：賀川豊彦コーナー」として東京・埼玉エリアのフェスタ(コープの祭典)へ、賀川豊彦記念松沢資料館が協賛出展しました。埼玉会場はさいたまスーパーアリーナにて10月20日(日)に開催され、3万5千人もの来場があり「賀川豊彦コーナー」には200人もの方が訪れてくださいました。また「賀川豊彦アンケート&クイズ」へ参加頂いた方には『一粒の麦』になぞらえた「コープの麦チョコ」をプレゼントしました。参加者からは、「賀川豊彦・ハルの活動は今、そして未来に繋がる活動ですね！」など多くの意見をいただきました。

～資料館の日常から～

①ポケット学芸員　(音声ガイド)をはじめました

この度、賀川豊彦記念松沢資料館では、ポケット学芸員(スマートフォンによる音声ガイドシステム)を導入しました

た。専用の無料アプリをダウンロードし、館内の展示物に掲示してある番号を入力して頂くと、学芸員による詳しい解説を聞くことができ、ご観覧の皆様のお時間に合わせて、お好きなタイミングで理解を深めていただくことができます。お越しの際はぜひご活用ください。

②無料入館日＆映画会の開催

賀川豊彦記念松沢資料館は松沢幼稚園、松沢教会と共に世田谷地域風景資産に認定されました。これを記念して不定期ではありますが地域向けの無料入館日＆映画会を開催しております。毎回上映している『死線を越えて』は、戦後ノーベル文学賞と平和賞にノミネートされ、協同組合運動の父と呼ばれ、上北沢に住み続けた賀川豊彦の生涯を描いた映画です。今回の開催日2019年10月5日（土）には近隣の方々に多数おいでいただき、盛況のうちに幕を閉じました。次回開催日については改めてホームページやフェイスブック、ポスターなどで告知をさせていただきます。

○7月～12月までのご来館団体一覧

2019年下半期も沢山の団体様より見学・研修のご依頼を頂きました。ありがとうございました。

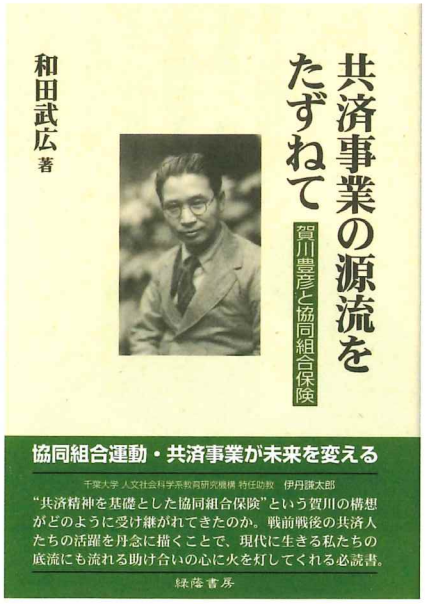
7月・パルシステム東京様・パルシステム連合会様・コープ共済連様・日本生活協同組合連合会様・こくみん共済coop様・パルシステム神奈川ゆめコープ様・なのはな生協様　8月・パルシステム連合会様・こくみん共済coop様・JA共済連埼玉様・パルシステム山梨様・日本生活協同組合連合会様・パルシステム連合会様　9月・日本生活協同組合連合会様・(株)パルライン様・こくみん共済coop様・日本共済協会様・大学生協様・さがみ生活クラブ生協様・連合西北ユニオン様・パルシステム神奈川ゆめコープ様　10月・日本精工㈱様・JA北海道中央会様・パルシステム東京様・明治学院同窓会様　11月・日本電気通信システム労働組合様・教職員共済生協様・日本生活協同組合連合会様・神奈川県建築士事務所協会県西支部様　12月・パルシステム神奈川ゆめコープ様・東芝コンシューママーケティング労働組合様・こくみん共済coop様

研修のご利用についてのお問い合わせは、お電話またはHPをご覧ください。

◇◇◇◇◇◇◇ 新刊書籍案内 ◇◇◇◇◇◇◇

『共済事業の源流をたずねて』　和田武広　著

2018年度　第3回出版助成　受賞作です。当館でも扱っておりますので、ご入用の方はホームページよりお問い合わせください。



催事予告

◇カガワ協同組合スクーリング開催◇

2020年1月30日(木)

於　松沢教会・松沢資料館

協同組合の垣根を越えての学びあい研修会です。

企画　カガワ協同組合スクーリング実行委員会

主催　賀川豊彦記念松沢資料館

参加対象者　各協同組合職員

詳細は当館までお問い合わせください。

◇その他ご連絡◇

○冬期休館のお知らせ

2019年12月27日～2020年1月6日まで休館致します。詳しくは松沢資料館ホームページの開館カレンダーをご覧ください。

○皆様のご意見ご感想をお待ちしております。

○転居などでご住所が変わられた方は、お手数ですが当館事務局までお知らせください。

❖ 発行者情報 ❖

『賀川豊彦記念 松沢資料館 資料館ニュース』第89号
発行年月日：2019年12月20日
発行者：賀川豊彦記念 松沢資料館
発行責任者：金井新二
住所：〒156-0057
東京都世田谷区上北沢3-8-19
電話：03-3302-2855
FAX：03-3304-3599
メール：office@unchusha.com
URL：http://zaidan.unchusha.com/